

## 認知症総合支援事業の地域課題について

・認知症地域支援推進員<sup>※1</sup>、及び認知症初期集中支援チーム<sup>※2</sup>からの意見

※1 認知症地域支援推進員：市町村と協働し、地域の実情に応じて医療介護等のネットワーク構築、事業の企画調整、相談支援体制構築を行う。各包括等に配置されている。

※2 認知症初期集中支援チーム：複数の専門職が家族の訴え等により認知症が疑われる人や認知症の人及びその家族を訪問し、アセスメント、家族支援などの初期の支援を包括的、集中的（おおむね6ヶ月）に行い、自立活のサポートを行う

大項目	中項目	意見
まちづくり、地域づくり、普及啓発	おれんじスペース登録事業者のフォローアップ	・おれんじスペース登録事業所の活動実態が見えていない。定期的な声掛け、支援ができていない
	おれんじスペースが周知されていない	・おれんじスペースなどの事業が専門職や市民に周知されていない
	認知症の人を地域で見守る体制が不十分	マンションに住んでいるとオートロックや近隣との関係性の欠如などにより見守りが十分にできず発見が遅れるケースがある。早期発見、早期対応できる地域ネットワークがない。
	地域住民の認知症に対する理解が不十分	・地域住民の認知症に対する理解不足
		若年層の認知症の理解不足、周知不足があるように思われる。 ・独居で認知症の人について地域の人たちが「施設に入れろ」と訴える。認知症を隠さない町にはほとと遠いと感じるが、おれんじスペースも説明しづらく普及が進まない。
	認知症という言葉が受け入れられていない ・企業や小学校以外の教育機関との連携が少ない。 既存の資源について活用が不十分	・「認知症」とつく事業に拒否感を示す人がいる。 ・企業や小学校以外の教育機関との連携が少ない。 (アイデア)・啓発ツールの充実、芸大のデザインコラボ
相談体制	家族が認知症を早期に相談することができていない	・相談を受ける中で認知症が進行してから困り果ててからの相談も見受けられる。認知症に対する理解不足や、家族での抱え込みなどの問題もある。早期相談に結びつかないケースもある。
	相談場所が周知されていない	・認知症かなと思った時にどこに相談したらよいか周知されていない
	家族が支援を求めず、抱え込んでいる	・認知症の人が使えるサービスがないという家族の諦めから家族が支援を求めず結果抱え込んでいるケースがある
支援サービス、社会資源	若年性認知症の人が使えるサービスが少ない	・若年性認知症の方が利用しやすいサービス、取り組みが少ない
	認知症に特化したデイサービスがない	・認知症に特化したデイサービスがない
	身寄りのない方を見守るサービス ・介護保険以外で利用できるサービスが少ない	・身寄りのない認知症高齢者に対する見守りサービスの不足 ・介護保険以外で利用できるサービスが少ない
		・市民のニーズにあったサービスが少ない
移動手段	免許返納に対して消極的	認知症があっても免許返納に対して消極的な方が多い。返納後のサービスが少ない。
	①軽度者が利用しやすい交通手段が少ない。	移動の困難さは社会参加を制限します。(アイデア)・きたバス乗降援助・自動車運転免許を返納後のサポート・優遇措置・セニアカーのレンタル・路面整備・バスの待合所の充実・安全な自動車運転継続への働きかけ、自動車関連事業者への協力依頼、サポカー普及
集い、交流の場	認知症カフェなど集いの場が少ない	・コロナ禍で認知症カフェが閉鎖していることにより、集いの場がない
	本当に支援を必要としている人が、交流の場に参加しにくい	・ほととひといきりフレッシュ等の交流の場を、本当に支援を必要としている当事者、家族が利用できていない(本人を家に残して外出できない、などの理由)
	催しに、新規の参加者が少ない	・せっかく認知症講演会やほととひといきりフレッシュ、介護者の集いなどの企画を行っても参加される方が毎回同じ方が参加されているような印象を受ける。新規の参加者がなかなか増えない。 ・認知症に関する事業の中でも、ほととひといきりや介護者の輪に参加者が少ない。平日開催で良いのかどうか。
	当事者同士、介護者同士の交流拠点の不足。	認知機能が低下してきている方は、「時間」「場所」が限定されるとサロンに参加できないため、いつでも利用できる交流場所が必要
支援者の活用・活躍の場	認知症サポーターの活躍の場がない	・認知症サポーターやの活躍の場がない。キャラバンメイトも活躍の場がとても狭い。受付の手伝いだけではもったいない気がします。キャラバンメイトはおれんじスペースについてどう思っているのか聞いてみたいです。
	キャラバンメイトの活躍の場が少ない	認知症キャラバンメイトが十分に活動できていない現状もある。